Book Review 36-9 テロリスト　＃テロリストのパラソル

『＃テロリストのパラソル』（藤原伊織著）を読んでみた。著者は『ダックスフントのワープ』ですばる文学賞を受賞。その後の 1995 年、ギャンブルでかさんだ借金の返済のため、賞金 1000 万円を目当てに本書で江戸川乱歩賞に応募して受賞。翌年、同作で直木賞も受賞した。それまでに同一の作品で二賞を受賞したのは史上初であった。

先日、衆議院議員選挙が行われ、自由民主党の大敗に終わった。国民のことよりも金を重視する姿勢に選挙民から怒りを買った当然の結果であろう。

本書には 1970 年前後の学生運動（東大紛争）が背景にある。アルコール依存症のバーデンダーS（元東大生）は、20 年前の自動車爆発事件をきっかけに（爆破犯として指名手配され）、名前を変え、過去を隠して生活していた。秋の日のＳ中央公園で、朝からウイスキーを飲みながら（日課となっている）ウトウトしかけたその時、何らかの爆発物が爆発し、死傷者が多数出る。事件の被害者の中に、かつて学生運動を共に闘った友人Ｋや 3 カ月だけ同棲したことのある女性Ｙが含まれていたことを知る。かつてＫとＳは、爆破犯として警察に追われていた。爆発現場に置きっぱなしのウイスキーの瓶から指紋が割り出され、Ｓは今回の事件でも疑いがかかることになり警察の手が伸びる。否応なく事件に巻き込まれ、Ｓは犯人捜しに乗り出す。その中で短歌が犯人同定のヒントになる。登場人物の個性がうまく描写されている。

誰が犯人で、なぜＳ中央公園に爆弾を仕掛けたのか。その解明のための伏線が秀逸で江戸川乱歩賞と直木賞の同時受賞につながったのであろう。テロルに向かわせた動機に社会性が今一つ欠けている気がした。本作は 1996 年にフジテレビにより萩原健一主演で映像化されている。

テロルを扱った小説・ノンフィクションをネットで探してみた。
『オリンピックの身代金』（奥田英朗著）。1964 年の夏。警察の関係者を狙った爆破事件が連続で発生。同時に「オリンピック開催を妨害する」という脅迫状が届けられた。警察は、国民には一切伝えずに、秘密裏に犯人を追う。

『半島を出よ』（村上龍著）。北朝鮮が日本を侵略して反米派を送り込む作戦で、反米派のグループが福岡に侵入し制圧した。日本政府は国連や諸外国に助けを求めても「侵略ではない」として援助を受けられない。そこで立ち上がっ

たのが、過去に犯罪に手を染めた少年たち。最近、北朝鮮はウクライナ・ロシヤ戦争に派兵している（仮想が現実に）。

『亡国のイージス』（福井晴敏著）。新システムを搭載した海上自衛隊の艦船が太平洋の訓練海域に出ることになる。特殊兵器の盗難や航空機墜落事故など、さまざまな事件が発生。ある男が船内に潜伏している北朝鮮工作員の仲間だと教えられ……。「イージス」とはギリシャ神話に登場する最高神ゼウスが娘アテナに与えた、あらゆる邪悪を払う「無敵の盾」のこと。

『天空の蜂』（東野圭吾著）未読。原発停止か、ヘリの墜落か。軍用のヘリコプター「ビッグ B」が、「天空の蜂」を名乗るテロリストに奪われる。「ビッグ B」は大量の爆薬を積んだまま、稼働中の原子力発電所に向かう。タイムリミットが迫るなか、日本政府はどのような決断を下すのか。

『ホワイトアウト』（真保裕一著）未読。テロリストにたったひとりで立ち向かう小説。ダムで働く男が猛吹雪の中事故に巻き込まれ、親友を亡くす。テロリストによってダムが占拠され、職員が人質にとられる事件が発生。そこには亡くなった友人の婚約者がいた。テロリストの要求は 50 億円。用意できなければ人質を殺害し、ダムを破壊させ、20 万世帯を水没させるという。タイムリミットは 24 時間。男がテロリストに挑む。

『テロルの決算』（沢木耕太郎 著）未読。社会党委員長の浅沼稲次郎と右翼の少年山口二矢。政治の季節（1960 年）に邂逅する二人のその一瞬を描くノンフィクション。時間が許せば、本書を読みたい。